

2022. 4. 16～17

谷川馬蹄形 報告書

記 柴田



計画書整理 No.

期 間：2022年 4月 16日(土)～17日(日)

種 別：縦走

参 加 者：河本さん、奥田さん、柴田

コースタイム：4月16日(土) 6:00 谷川ベースプラザ→6:30 東黒沢 →9:30 松の木沢の頭→12:00 白毛門→13:15 笠ヶ岳→13:30 笠ヶ岳避難小屋

4月17日(日) 5:00 笠ヶ岳避難小屋→6:20 朝日岳→7:00 JP→8:30 清水峠→10:30 七ツ小屋山→11:20 蓬ヒュッテ→13:00 武能山→14:15 笹平→16:45 茂倉山→17:20 一ノ倉岳→19:10 オキノ耳→19:40 トマノ耳→19:50 肩の小屋→20:40 天狗の留まり場→21:00 熊穴沢避難小屋→22:00 田尻尾根分岐→23:30 田尻尾根登山口→24:30 谷川ベースプラザ

記録

4/15(金)に前夜泊の上、4/16, 17の二日間で谷川岳馬蹄形を縦走した。

以下、詳細

4月16日(土) 雨雪

前日に谷川ベースプラザの駐車場で前夜泊し、6時頃出発した。駐車場を出ると外はそこそこの風で小雨も降っていた為、出発から雨具とザックカバーを付けての山行となった。ベースプラザから車道を少し降って橋を渡ってすぐ左

側に白毛門の登山口がある。白毛門登山口駐車場にはまだまだ雪が残っていて4月いっぱい止められそうもなかった。

登山口から少し危なっかしい橋を渡って沢沿いに登っていくと途中で左側が急勾配の斜面になる。微かなトレースを辿りながら斜面を登っていくと左手に尾根が見えて来て、途中から尾根に乗った。序盤の尾根上は雪が解けて夏道が見えており春山を感じた。松の木沢の頭の辺りから樹林帯を抜け雪がしっかり付きだしたので、この辺りからアイゼンを装着した。次第に雨も雪へと変わり、ガスで眺望が悪くなった。至る所にクレバスがあり、歩く場所に気を遣いながら進むと、白毛門の手前辺りから雪が剥がれ落ちて山肌が剥き出しになっている箇所が出てきた。崩れた雪と急勾配で足場が悪かった。最上部には雪壁が出来ており、越えた先が見えなかった為、デッドマンでセルフを取ってザイルを出し登った。3mほどの雪壁を越えるとまた歩き易い道となり次第に白毛門へ到着した。ガスで視界が悪かったが尾根伝いに1時間程歩くとやがて笹に覆われた笠ヶ岳が見えてくる。山頂から少し降りた鞍部に笠ヶ岳避難小屋があり、元々蓬ヒュッテまでの予定だったが天候やメンバーの様子・時間等を考慮して初日はここで休む事とした。雪で水を作り、夕飯を食べて就寝した。



尾根に乗ると夏道



雨が雪に変わり始める



白毛門手前の雪崩跡



笠ヶ岳手前辺り

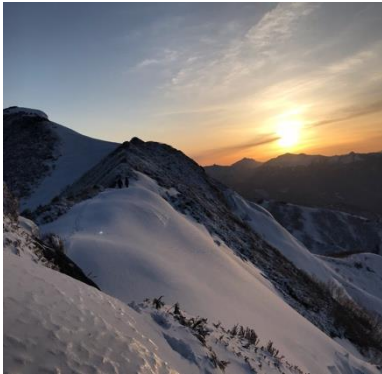


笠ヶ岳避難小屋

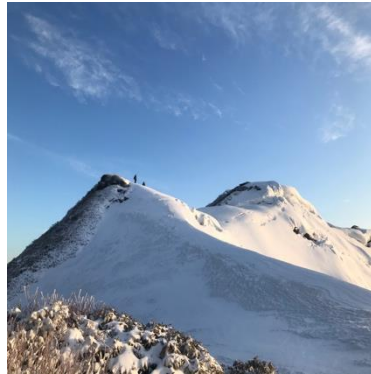
4月17日(日) 晴れのち雪

昨日は天気が悪かったが、今日は風もなく気持ち良く晴れた。朝食を食べて日の出と共に出発し、ここからはひたすらに稜線を歩きだした。谷川の山々が良く見えこれから我々が歩く道のりがよく分かった。朝日岳までは緩い登りで、朝日岳を越えて雪原を抜けると降りに差し掛かった。アップダウンはあるものの歩く道は稜線上で気持ちが良く、ハイマツ帯で踏み抜く箇所もあったが基本

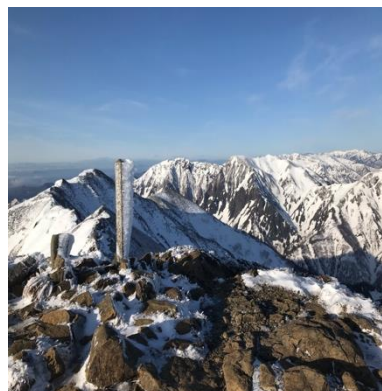
的にはトレースのない薄雪の上を歩いてとても快適だった。清水峠を左に曲がらず直進し2時間ほど登ると七ツ小屋山に到着した。この辺りから稜線上に夏道が出て来始めて、夏道と雪道の歩き易い場所を登った。七ツ小屋山から蓬峠までは再び降りて、営業はしていなかったが蓬ヒュッテは雪が溶け姿を表していた。武能岳までの登り返しはひたすら夏道で歩き易かったが、山頂越えた先の降りがとても悪かった。降った先の道は見えるのだが、そこに向かう道が急傾斜地で切れていて見えず、雪にもクレバスが入っていて縁まで行って確認するのも躊躇われ、結局ここでザイルを出しながらクライムダウンした。



歩き出し、日の出



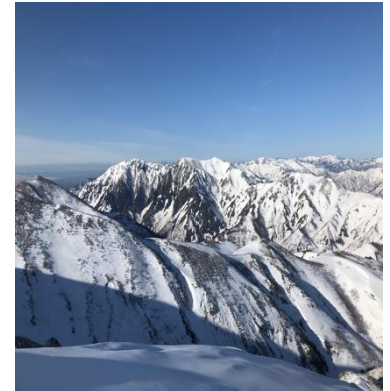
我々のトレースしかなく気持ちが良い



朝日岳



朝日岳直下



一ノ倉方面



清水峠



夏道が現れ始める



武能岳手前

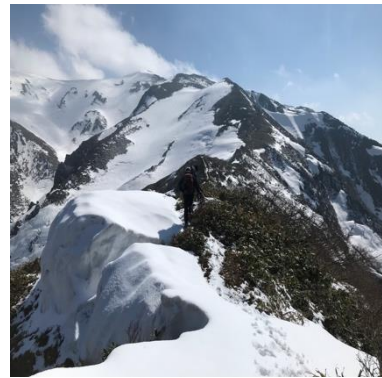
ちょうど50mいっぱい程降ると夏道にたどり着いた。行ってみると何てことない降りだったが、夏道は崖側にあつて道を知らないと中々思い切った動きが出来なかった。そこから先は夏道を辿りながらの登りだった。遠くに茂倉山は見えているが、とても長く感じられここからの登りは中々に応えた。2時間程

で茂倉山に辿り着くと、周りは次第にガスが濃くなり、今にも降り出しそうな霧困気となった。日が暮れる前にトマの耳まで到着するため、休憩もそこそこにヘッドライトを用意して出発すると、緩い降りと登り 30 分ほどで一ノ倉岳に到着した。

一ノ倉岳からオキの耳の登りを見ると岩と雪のミックスで傾斜が強くとても簡単に登れる様に見えない。恐る恐る歩き始めると所々に鎖が出ておりトレースも濃く残っていて、遠くから見る程難しく感じなかった。オキの耳に到着する頃には辺りがすっかり暗くなっており、雪も少し降り出した。暗さと雪で視界が悪かったが、この辺りまで来ると登山者も多いのだろうトレースが濃く残っており、難しい箇所もなくトマの耳まではルートに迷う事もなく辿り着けた。暗くて遠くからは小屋が見えなかったがトマの耳から降ってすぐ右側に肩の小屋があった記憶を頼りに右側のトレースを辿ると 10 分ほどで肩の小屋に到着した。この日の肩の小屋は既に扉が開いており、中に入って休憩を取りつつ、降るかビバークか会議の上、降る決断をした。



武能岳直下



茂倉山への登り返し

ここからの下山道も引き続き視界が悪かったが、トレースが大量に着いていたので、真っ直ぐ降ることができた。あっという間に雪に埋もれた熊穴沢避難小屋に到着した。そこから少し先に田尻尾根分岐へ向かう為、左に曲がるつもりで歩いているといつまで経っても左に曲がるトレースが見当たらず、仕方なく堰堤の辺りから左に逸れた。そこそこの斜度の杉の林をトラバースして行くとやがて立派な尾根に突き当たった。

そこからは尾根をなぞりながら降るだけだったが、ここも結構な傾斜があって所々横向きになりながら慎重に降った。やがて沢の音が聞こえてくると雪原に到着し、橋を渡ってから沢沿いに降っていった。何度か川を渡る必要があり基本橋が付いていたのだが、最後の二箇所は簡単に渡る箇所が見つけれず流れの強い沢を濡れながら渡渉する羽目になった。手前の一箇所を渡った後はヒビだらけの雪溪のうえを歩く必要があって緊張感があった。やがて雪が無くなり丸石を歩いて最後の渡渉を終えるとベースプラザの明かりが見えて、ベースプラザ手前の車道に飛び出し、5 分ほどで駐車場に下山した。

感想

今回は奥田さんも交えて久々の会メンバー3名での山行でした。初日が想像以上に天候が悪く、雪の状態も悪かった為時間がかかってしまい、予定していた場所まで進むことができませんでした。その為二日目の行程がハードになってしまい自分の我儘を通してしまった事もあって、結局深夜に差し掛かる20時間程の行動時間となってしまいました。午前中は天候が良くとも、やはり午後からは天気が崩れ始めてガスにより視界も悪くなる為、山では極力早い時間に行動する事は鉄則だと改めて学びました。

今回はトレースが濃く残っていたから良いものの、夜間の行動は道迷いの危険を大いに孕んでいて、仕事があるからと安易に無理をしてはいけないなと思いました。皆さんにご迷惑をおかけしてしまって申し訳なかったです。

また縦走路であると安心していましたが、所々緊張を強いられる箇所もあって如何なる場所でも記録に頼りきる事なく、自分で目で見て状況判断をしていく重要さ、自分の未熟さを再認識しました。

という様に今後の為に様々勉強となる貴重な山行となりました。また久々にこんなに長い行動をしたので体力的にも良いトレーニングになって良かったです。

改めて河本さん、奥田さんに感謝をしたいと思います。思いの外大変でしたが楽しかったです！また是非山行きましょう！！ありがとうございました m(_)_m